

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300041		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームさかほぎ		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300041-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニット9人の小規模の利点を活かし、フットワーク良くアットホームにできる限り自由に、家庭と変わらぬ生活を追及している。地域との交流では、廃物利用クラブや切手収集、傾聴ボランティアさんに定期的に来て頂いている。また、「臨床美術」を実践するボランティアによる、脳の活性化を促す手法を取り入れている。毎週1回のヤクルト販売員の訪問などを通じて選択の機会の確保にも努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、利用者の活力を引き出し、心身機能低下の予防に取り組んでいる。継続して訪れる地元のボランティアからは、墨絵の手ほどきを受けたり、廃品を活用した椅子やクッション作りなどで、指先をこまめに動かし、脳の活性化に成果を上げている。管理者・職員は、家族的な営みを大切に、目配りと笑顔を絶やさない姿勢で、気心の通い合う関係を築いている。法人全体でネットワークシステムを設けており、ホームは、情報の収集と発信を効果的に行い、利用者サービスの向上に反映させている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈恵会基本理念を毎週月曜日に職員全員で唱和し、その都度理念を共有している。	理念の中に、個人の尊厳と尊重、自立支援を盛り込んでいる。それを、玄関先の目立つ場所に明示し、職員は日々確認をしている。地域との馴染みの関係を大切にしながら、安心と満足のできる暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設の行事等に参加している。また、町民まつりにも参加し、地域の一員として交流している。事業所周辺は地域の人々の散歩コースなので日常的に挨拶を交わしたり野菜をいただいたりして交流している。	周辺には、公共施設や同法人の老人福祉施設が隣接し、交流の場になっている。地域の一員として、祭りや運動会、作品展、防災訓練などに参加をしている。地元のボランティアも、日常的に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃物利用クラブで作った作品を町民まつりのバザーに提供したり、寄付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、役場福祉課・民生委員・幼稚園園長・家族代表等の参加で2か月に1回開催している。事業運営報告を行い、意見、要望をサービス向上に繋げている。	会議は、隔月に開催し、運営の実情を報告して意見を交換している。行政からは、行方不明者の情報提供があったり、感染予防と健康管理、イベント計画などの提案を話し合い、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議が、さらに充実するように、会議の進め方や、議事録の工夫に期待をしたい。また、職員会議も、同様な手法を活かされるとよい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、毎月開催される事業所連絡会議に出席し、事業所の入居状況や待機者について報告している。夏祭りなどの行事に参加して頂いて事業所の様子を見て頂いている。	町主催の、事業者連絡会や地域包括支援センターの認定調査で、情報を交換している。担当者へは、待機者状況や困難事例を報告し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味を十分理解し、身体拘束のないケアを実践している。夜勤帯の安全確保できないとき以外は自由に出入り出来るように開放している。	身体拘束は、行わないことを職員に徹底している。安全上やむを得ない場合は、家族と母体法人の向上委員会が、最善策を話し合っている。玄関の鍵は開放し、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでおり、職員一同周知し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は適応する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の取り交わしについては、事前面接さらに入所時にも十分な説明を行っている。内容に変更があった都度取り交わしを行い、ご家族からの疑問点は質問して頂き理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族の意見要望について、担当者会議や面会時に確認するとともに、毎年満足度調査(アンケート)を実施し意見収集に努め、いただいたご意見には職員全員で真摯に回答しサービスの向上に努めている。	家族の面会時に、話し合いをしている。訪問の少ない家族もあり、満足度調査のアンケートを実施している。その結果は、法人の向上委員会で検討を加え、サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月施設長を交えた職員会議で意見や提案、ケアの気づきを聞き、意見交換を行っている。職員からの意見、提案をホームの運営に活かしている。	管理者が、職員から意見を聞くための会議を設けている。失禁対応や行事計画、家族との連絡の取り方、研修受講、ストレスの緩和など、様々な提案や要望を踏まえ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務のストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するようにして、実績、努力、業務状況の確認に努め、個々の健康、環境にも目を向けた上で、向上心や勤労を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅研修等の修得段階に応じてコースを設定している。外部研修、法人研修の取り組みには、勤務調整を行い参加を可能にするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人グループホーム7事業所が「向上委員会」として2か月に一度のサービスの質、コンプライアンス等に関する情報交換や学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際し、担当ケアマネージャからの情報を基本に直接ご本人、ご家族から心身状況、生活歴、家族構成、趣味、性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメントに反映し不安や要望等を把握し安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、環境を把握して、ご本人、ご家族の望まれる支援に努めている。サービス開始後も面会時や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常にご利用者ご家族の立場に立ち、近況の把握と傾聴により、可能な限り柔軟な対応を行い、方向性が見いだせるようご助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の生活歴や心身の状況を観察し、ともに掃除や洗濯、調理等を行い、散歩や買い物等暮らしの中での役割を持っていただき、ご自身のやりがいの発見を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時のときには、日常生活の様子を伝えている。また、ご利用者のご家族への温かい思いをお伝えし、本人と家族の絆を大切に深めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊は規制しないことを基本に、訪問を奨励している。また地域の町民祭り等にも積極的に参加し、馴染みの関係が途切れないようにしている。	地域の行事に出かけ、知人や友人に出会っている。また、馴染みの店で買い物をしたり、飲食店などへ出かけている。定期的に訪れるボランティアや理容師、ヤクルト販売員も馴染みの人である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がキーになることを心掛けている。相性の合わないご利用者のトラブル等には間に入り、それぞれの方の居室にて心の訴えに傾聴し、安心して頂けるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の連絡調整、情報提供、相談援助を行いながら、退所先でも円滑に支援が受けられるよう助言支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々のやりたい事、できる事を、日常の会話や家族からの情報で把握している。その日の気分や体調に合わせ、散歩や、アクティビティなど個々の意向に配慮し支援している。	日常の場面で表出する利用者の思いを、職員は注意深く観察している。淋しがりやの人、甘えたい人、やきもち焼きの人、こだわりの人など、その人なりの思いを受け止め、落ち着いて暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者との会話を中心にご家族の方々から情報を収集し把握に努めている。中には様々な理由で把握が難しいケースもあり、ケースバイケースでできる限りの取り組みを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察により、早期発見に努めている。また加齢に伴う体調変化のリスクに留意し、必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を把握し、朝、夕の申し送りにて対応の統一を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと、ご本人、ご家族の意向を伺い、双方の意向を反映したご利用者主体の介護計画を作成している。また3ヶ月毎の見直しと、状態の変化に応じ随時見直しを行っている。	家族を交えた、サービス担当者会議を開き、本人の暮らしが、より良いものになるよう意見を出し合い、介護計画を作成している。定期的に、モニタリングを行い、必要があれば、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランに沿った経過記録を残し、モニタリング、評価表を通して評価し、次のケアプランに活かす努力をしている。また、体調変化等に対して、家族との連携を密にし最善の方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉施設内の機能を生かし、行事に参加、設備の共有がいつでも可能である。その時々家族の要望や、ご利用者のその日の状況によって柔軟に対応している。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の指導のもと地元自治会や企業との防災協定を締結し、総合防災訓練を行っている。また、民生委員や、ボランティア、保育園等と日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力により受診、通院を行っている。事情により外来受診が出来ない場合は、職員が同行している。また、主治医等と情報提供表、看護サマリー等で連携を密に行っている。	利用者はかかりつけ医を主治医とし、家族が定期受診の同行を担っている。症状に変化があれば、職員が同行して、主治医に事情を説明している。緊急時は、救急指定の協力病院へ移送できる体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員との連携により日頃より医療面の指導助言を受け、急変時に対応できる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカー、主治医、看護師と、情報提供表、看護サマリー等で連携をとっている。入院先は定期的に見舞うようにしてご家族と共に情報交換をしながら退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居前に事業所の方針をご本人、ご家族に十分に説明し、了承を得ている。終末期には退去してもらう方針である。退去後の受け入れ先の確保等、ご利用者、ご家族が安心して頂けるよう支援している。	重度化、終末期の方針があり、本人、家族の同意を得ている。日常生活が困難な場合を、退去の基準とし、法人系列の福祉施設を含めた、移転先が確保できるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの常備、ご利用者の急変や事故発生時に備えて、併設施設の看護職員から、応急手当の仕方や初期対応の仕方など指導を受けている。また二年に一回の救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政や地元自治会と合同で、夜間や風水害などを想定した訓練を積極的に実施している。運営推進会議などで報告し、ご利用者ご家族に周知していただいている。3日分の備蓄もそなえている。	災害訓練は、地域や行政と共同で実施している。また、災害の種別に対応した、自主訓練も行っている。すぐ近くの総合福祉会館が、地域の指定避難場所となっている。法人内に必要な備品や食料は確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格と、誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底し、言葉かけや関わり方を配慮した対応に心がけている。	プライバシー保護については、職員の自己評価票で、間違った言動はないか、常にチェックをしている。そして、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりの心で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思いや希望を表現できる環境を作るよう働きかけている。意志表現のあまりできない方には、表情をみて、ご本人に添える支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで1日を過ごして頂いている。家事手伝い、頭の体操、機能訓練など、ご利用者の希望に沿ってその人らしく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択はご利用者がされ更衣される。できない方は職員が付添い一緒に行っている。散髪は移動美容室に依頼し、好みのスタイルになるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物はご利用者と一緒に出掛け選んでもらっている。食卓もご利用者と一緒に囲み会話も賑やかである。また、季節の料理も多く取り入れるようにしている。	利用者も、食事の準備や片付けを手伝っている。旬の食材を採り入れ、家庭的な料理で食欲を満たし、利用者にとって食事が楽しい時間となっている。職員も、一緒に食べながら、楽しい会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量、水分量の摂取量を把握し、必要な人には栄養補助食品をとって頂いている。併設の管理栄養士に毎月栄養チェックをしてもらい、指導助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。自己にてできない方は、職員が介助し、清潔保持に努めている。また、訪問歯科による口腔ケア等にて清潔維持に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを尊重し、介助の必要な方はプライバシーに配慮しながら対応している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。夜間も同様な対応で、排泄の自立につなげている。おむつ用品は、その人に合ったものを採用し、羞恥心にも配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として食事、水分補給、毎日の体操等本人の状況に合わせて毎日働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回以上で毎日の希望があれば対応している。しょうぶ湯、ゆず湯など季節のものは必ず取り入れている。通常は入浴剤を利用し温泉気分を味わっていただいている。	入浴は、回数を制限せず、毎日でも可能である。好みに応じた、各種の入浴剤を入れ、温泉気分を味わっている。風呂好きの人がほとんどで、心地よい入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息して頂いている。また、夜間も希望の時間まで自由にテレビ観て、穏やかに気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的、用法など理解しており、ご自分で服用できない方には、確実に手渡しし、飲んで頂くまで確認し、誤薬のないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした役割を考え家事手伝いをして頂いている。また、クラブ活動を通して楽しみ事や気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に配慮しながら、散歩や買い物に出かけている。最低でも、月一回の外出に出掛けている。	日常的に、ホーム周辺を散歩している。向かい側にある福祉会館や運動場、近くのスーパーマーケットなどへも出かけている。近郊の名所地である公園や花見、演劇観賞など、多方面への外出を支援している。	

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度対応しています。ご家族からの電話を取り次ぎお話をしています。また要望や促しにより、年賀状や手紙の投かんの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と共用空間はご利用者と共に毎日掃除し隅している。木のぬくもりのある建物で天井も高く斜光もやさしいご利用者が自分の力で動けるように手すりを設置し、障壁のない空間を確保している。また、廊下には行事や外出時の写真を貼りだし当時を思い出して頂いている。	玄関には、植木鉢を置き、安らぎある空間になっている。居間にある畳の部屋は、多用途に活用し、広いベランダには、洗濯干しが見えて生活感がある。壁面に、行事の時の写真や、手づくりの貼り絵を飾り、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテレビはホールにあり、いつでも自由にみることができる。一人になりたい方は、自室でテレビを観たり、読書されたりと使い分けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に思い思いの飾りつけをしている。居室の入り口には、ご自分の部屋と認識できるように木の表札をかけている。また、ドアには花のイラストを描きご本人の目線に止まる位置に貼ってある。	各居室には、洗面台と押し入れが備え付けてある。使い慣れた、タンスや衣物掛け、テレビもある。写真や自作品を好みに飾り、室温は、デジタルの温湿度計で管理をし、快適に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自分の力で動けるように手すりを設置し障壁のない空間を確保している。		